

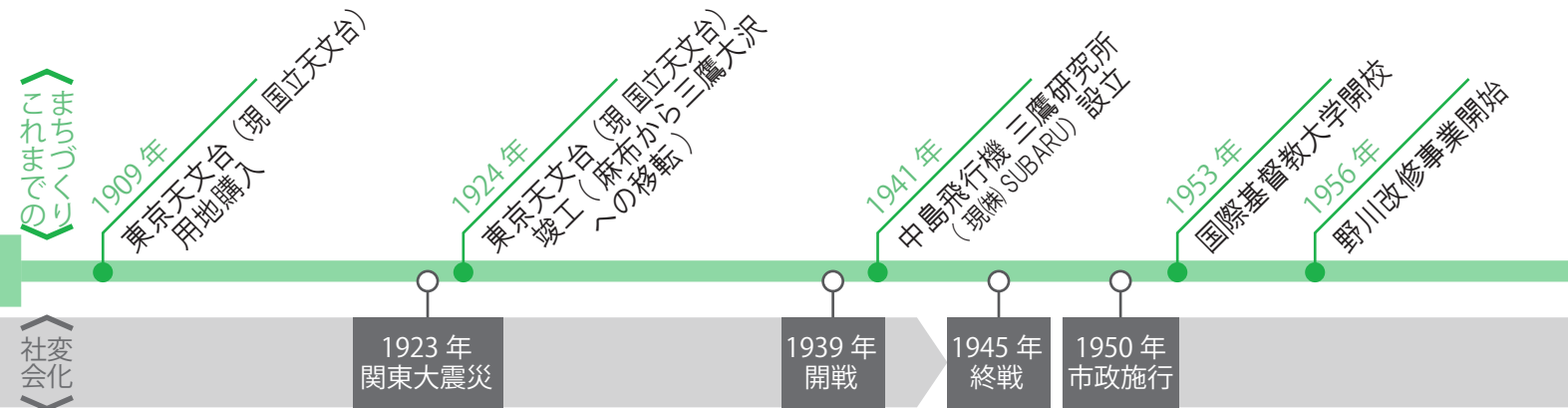
国立天文台周辺地域の まちづくりを考える ガイドブック

01	国立天文台周辺地域の今昔	1
02	国立天文台周辺地域の現況	3
03	緑と歴史資源から見る国立天文台	6
04	まちづくりの位置づけ	7
05	まちづくりに向けた検討課題	8
参考	まちづくりに向けた地域の声	9



令和4 (2022) 年6月
三鷹市

01 国立天文台周辺地域の今昔

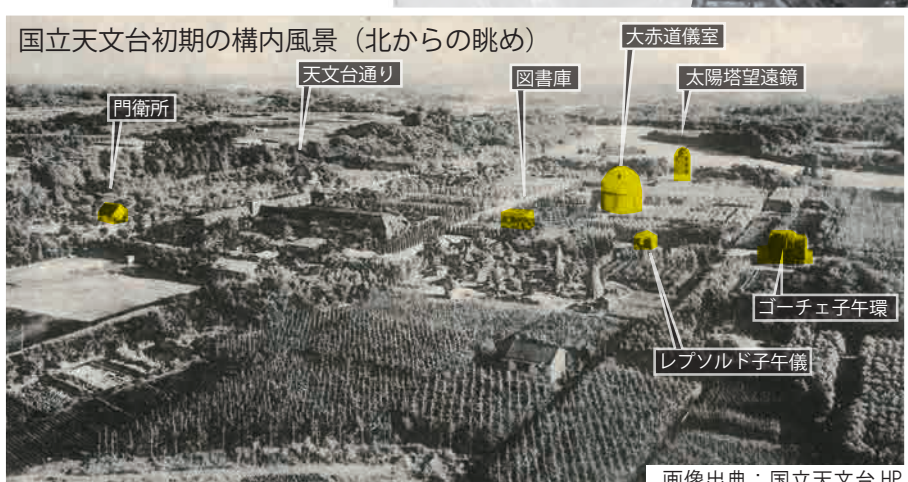
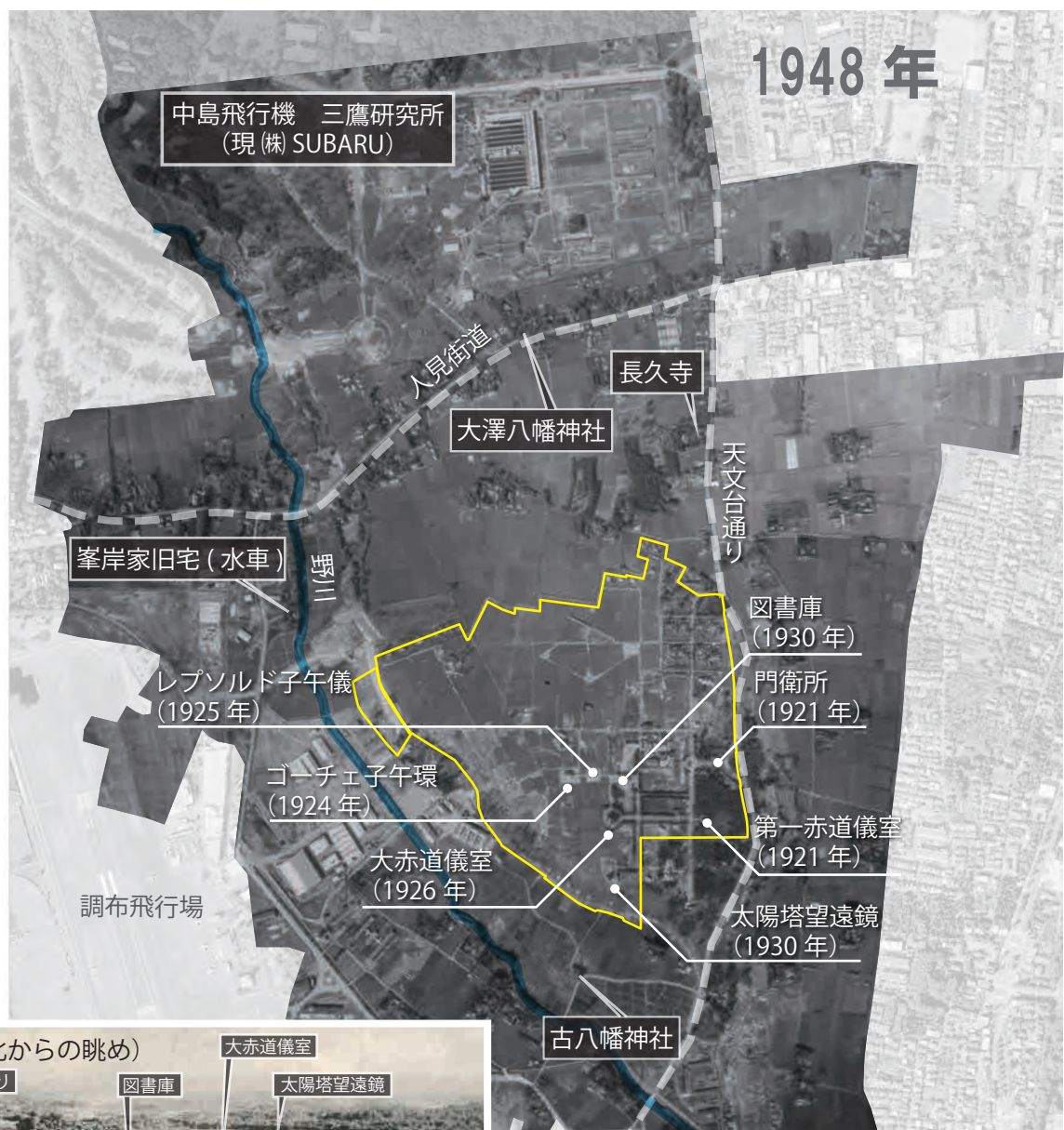


○昔の国立天文台周辺地域は、畑作と養蚕を中心に水田耕作も行われ、街道沿いでは宿場も見られました。

○その後、国際基督教大学、(株)SUBARU、国立天文台等の大規模な土地利用転換が行われ、地区内での住宅・寺社等の移転を繰り返し、関東大震災以降に市街化が進行しました。

○1969～1984年にかけて現在の主な公共施設が整備され、近年は地域資源を活かした文化施設が開設されています。

○国立天文台竣工後、約100年が経過する中で、国分寺崖線や国立天文台で多くの自然環境が保全され、地域の魅力となっています。



画像出典：国立天文台 HP

出典：写真集みたかの今昔

国立天文台周辺地域の今の姿は、社会変化の中で地域の人々とともに、国立天文台の三鷹移転後約 100 年かけてつくられてきました。次の 100 年も、国立天文台周辺地域の魅力である豊かな緑と暮らしを引き継いでいくことが大切です。



1995年 阪神・淡路大震災

2011年 東日本大震災

2019年 台風19号 避難所開設

2020年 新型コロナウイルス

三・四・二〇(天文台通り)



星と森と絵本の家



大沢コミュニティ・センター



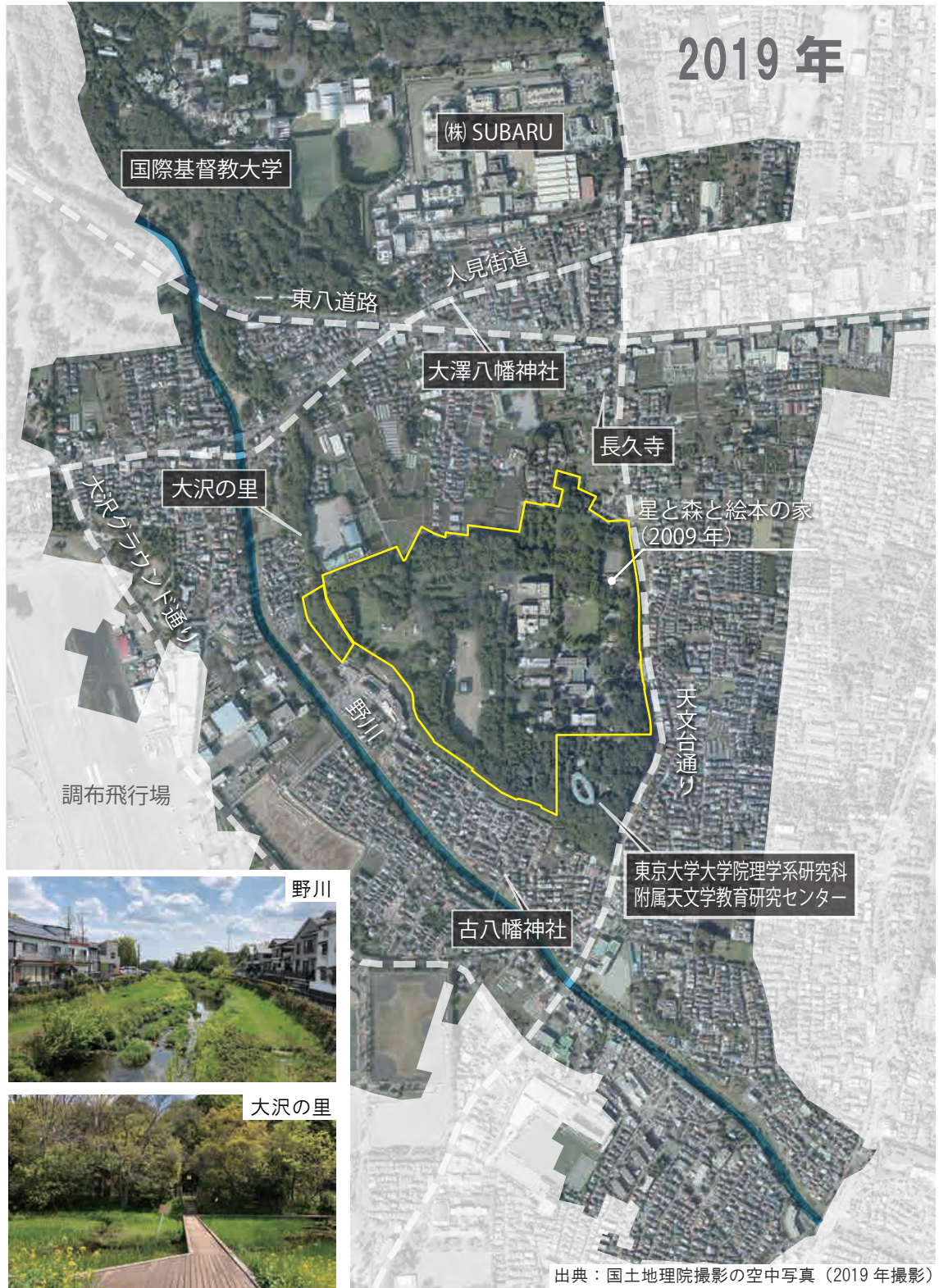
羽沢小学校



大沢台小学校



第七中学校



出典：国土地理院撮影の空中写真(2019年撮影)

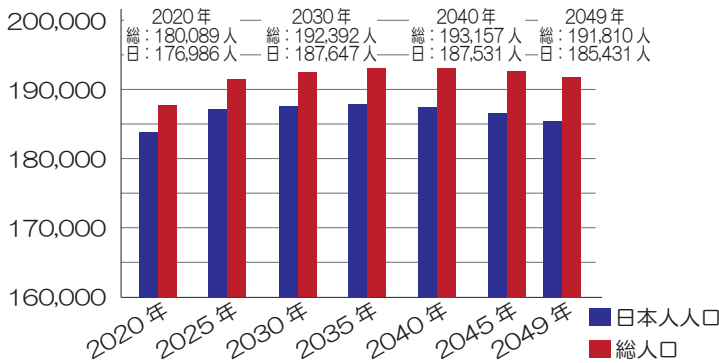
02 国立天文台周辺地域の現況

まちづくりの取り組みにおいては、地域の現況を知ることが大切です。ここでは、①人口・世帯数、②暮らし、③小中学校・学童保育所、④都市計画、⑤防災・道路に分類し整理しました。

現況1 人口・世帯数

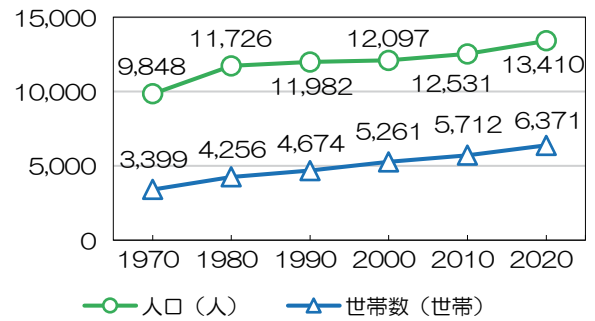
- 三鷹市の将来人口は、2038年まで増加したのち、緩やかに減少する見込みです。
- 国立天文台周辺地域の人口・世帯は、1970年代から漸増し2020年には約1.4倍に増加。
- 国立天文台周辺地域は、今後は農地の特定生産緑地への移行もあり、大規模な土地が宅地化される見込みが少ないと考えられることから、急激な人口や子どもの増加は少ないと推測されます。

▶三鷹市の将来人口推計



出典：第4次三鷹市基本計画（第2次改定）

▶国立天文台周辺地域の人口・世帯数推移



出典：統計みたか、三鷹市統計書、三鷹市統計データ集（1970～2020）

現況2 暮らし

- 国立天文台周辺地域には、スーパーマーケットが立地しておらず、日常生活の買物環境に課題がある状況です。
- 幹線道路沿いは、路線バスが運行していますが、野川周辺等はコミュニティバスで補完しています。
- 主な公共施設では、大沢コミュニティ・センター、西部図書館、西部市政窓口等に行行政機能が分散していますが、いずれもバス通り付近に立地しています。



凡例

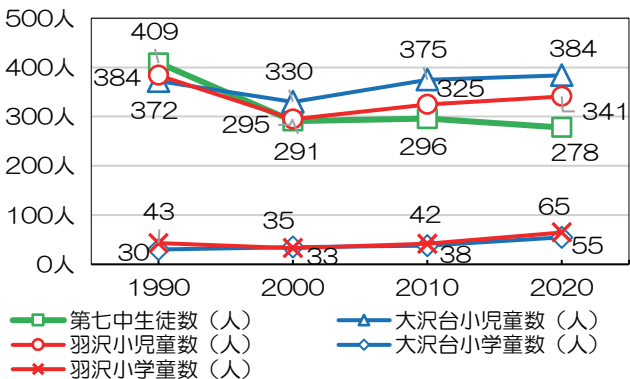
- | | |
|--|--|
| <p>店舗</p> <ul style="list-style-type: none"> スーパー コンビニ ドラッグストア・薬局 主な公共施設 | <p>路線バス</p> <ul style="list-style-type: none"> バス停 小田急バス 京王バス 武91・武93 みたかシティバス 三鷹台・飛行場ルート 鷹51 鷹58 調32 境91 調31 |
|--|--|

現況3

小中学校・学童保育所

- 小学校区は国立天文台の南北で分かれています。(羽沢小学校・大沢台小学校)
- 学童保育所は、羽沢小学校は学校敷地内、大沢台小学校は別敷地に立地しています。
- 小学校児童数は、2000年にかけて減少。近年は大型宅地開発の影響もあり、微増傾向です。学童数は近年増加傾向です。
- 中学校生徒数は、1990年以降減少傾向です。
- 1学校あたりの児童・生徒数の市内平均(2020年)小学生603人、中学生468人と比較すると、市内小中学校で最も少ない状況です。

▶ おおさわ学園の児童・生徒数推移



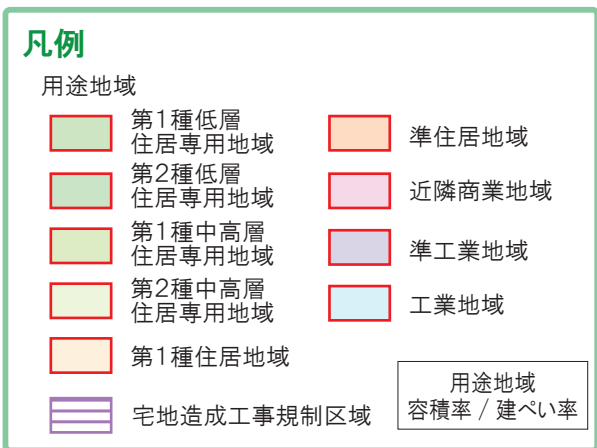
出典：統計みたか、三鷹市統計書、三鷹市統計データ集 (1990～2020)



現況4

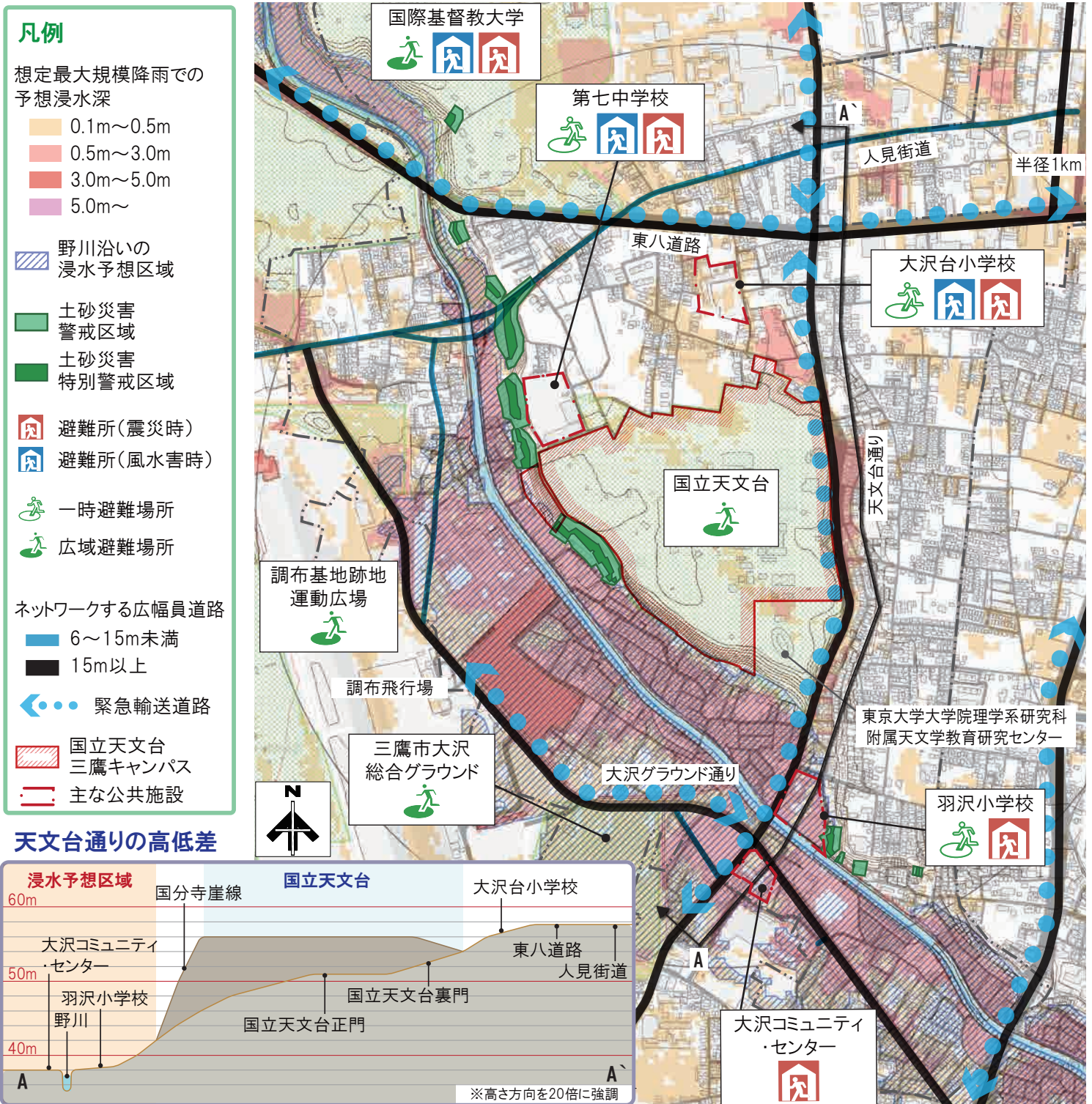
都市計画

- 国立天文台を含む一帯は、第1種低層住居専用地域が中心で、商業施設の立地が制限されています。
- 国立天文台敷地は、特に厳しい制約があり教育研究施設としての用途と一部不整合が生じています。
- 国分寺崖線沿いは宅地造成工事規制区域に指定されています。



5 防災・道路

- 国立天文台の西縁に沿って国分寺崖線があり、崖線上の国立天文台周辺と崖線下の野川周辺では、約15～20mの高低差があります。
- 野川周辺は、ハザードマップで浸水予想区域に指定され、浸水予想区域内の公共施設（羽沢小学校、大沢コミュニティ・センター）は、風水害時の指定避難所から外れています。
- 国立天文台は、広域避難場所に指定されています。大沢四丁目の南端（御搭坂橋付近）から国立天文台（北側裏門付近）への避難は、約1700mあり野川を渡る必要があります。
- 国立天文台周辺地域では戸建住宅や農地が混在し、生活道路は幅員6m未満も多いため、消防活動に困難をきたす地域が存在します。
- 天文台通りは、調布飛行場等を結ぶ緊急輸送道路に指定されています。



03

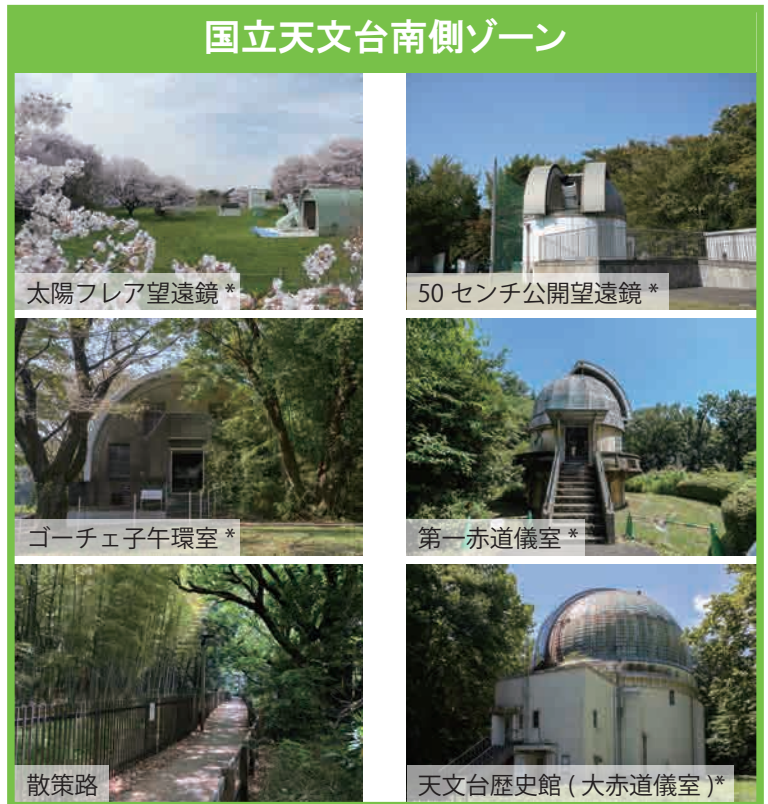
緑と歴史資源から見る国立天文台

国立天文台の敷地内には、当初の歴史的な遺構や施設が残っています。一方で、緑は広大な敷地に繁茂し、老木や枯木などが増えています。特に、研究施設のない北側ゾーンの緑の維持・管理は、一部に課題がある状況です。



緑の維持・管理が概ね適正に行われています。

緑の維持・管理の一部に課題がある状況です。



* 画像出典：国立天文台 HP

※ゾーン分けは P8 を参照 (※国立天文台周辺地域土地利用基本方針におけるゾーニングの考え方となります。)

関連する市や国立天文台の主な計画を以下に示します。国立天文台周辺地域では、防災・減災が優先課題となりますが、地域の人財が交流・循環する学校を核としたスクール・コミュニティや地域で支え合う地域社会など、新たなコミュニティをめざすことも大切です。

三鷹市

■第4次三鷹市基本計画（第2次改定）（令和2（2020）年3月）

- 「質の高い防災・減災まちづくり」を優先課題
- 成熟した都市の質的向上をめざす「都市再生」、ともに支え合う地域社会を生み出す「コミュニティ創生」を施策の柱として取り組む など

■三鷹市土地利用総合計画2022（第2次改定）（令和2（2020）年3月）

- 大沢住区は自然環境と防災などを考慮した保全・整備を図る
- 国立天文台エリアは「文化・教育・健康の拠点」として、緑豊かな環境が保たれ、市民に親しまれるよう土地利用の誘導に努める など

■三鷹市防災都市づくり方針（令和3（2021）年3月）

- 浸水予想区域内の避難所の移転検討 など
- 新都市再生ビジョン（仮称）策定に向けた基本的な考え方（令和3（2021）年9月）

【4つの視点】

- ① 防災都市づくりの推進
- ② 安全安心で快適に利用できる施設の確保
- ③ 社会状況の変化等への対応
- ④ 維持保全経費の縮減と平準化

■三鷹市教育ビジョン2022（第2次改定）（令和2（2020）年3月）

- 学校を地域の拠点であるプラットフォームとして、地域の人財が交流・循環していく、学校を核としたスクール・コミュニティに取り組む など

国立天文台

■第5次国立大学法人等施設整備5か年計画（令和3（2021）年3月）

- 施設整備の基本的な考え方としてキャンパス全体の「イノベーション・commons(共創拠点)」、実施方針として多様な財源確保・地方公共団体等との連携等を位置づけ

■自然科学研究機構キャンパスマスタープラン 2017（平成29（2017）年3月）

- キャンパスを人材の育成や先導的な研究拠点、地域貢献の実践の場等として位置づけ
- 長期的な基本方針として、①国際的・先導的な研究拠点の形成、②若手研究者育成拠点の形成、③研究環境の向上、安全・安心な整備、④先導的研究の発信地にならわしいキャンパス環境の充実をめざす

※今後改定予定

05 まちづくりに向けた検討課題

国立天文台周辺地域全体のまちづくりを進めるためには、地域全体・エリアごと・国立天文台内など、それぞれの課題を地域の皆様と共有したうえで、地域にとって最も望ましい形をめざしていく必要があります。

■周辺地域の課題

- ・地域の防災性の向上（浸水予想区域内の公共施設）
- ・商業環境整備
- ・交通ネットワークの再編
- ・地域資源の保全・活用（自然・文化的資源等）等

■国立天文台北側ゾーン

- ・自然環境と調和した新たな土地利用の検討
- ・国立天文台の研究教育の充実強化のための敷地活用による財源確保等

■国立天文台南側ゾーン

- ・研究教育及び公開機能の充実・強化
- ・日本の天文学を牽引した歴史的建造物の保全・継承
- ・観測環境及び自然環境の保全と適正管理
- ・都市計画の見直し等

凡例

- 公園等
- 一時避難場所
- 広域避難場所
- 避難所（震災時）
- 避難所（風水害時）
- 小中学校
- コミュニティ・センター
- その他公共施設
- 施設名
- 浸水予想区域内の公共施設
- 小学校区境
- 国立天文台周辺地域
- 国立天文台の範囲





参考 まちづくりに向けた地域の声

国立天文台周辺地域のまちづくりに向け、地域の皆様からいただいた声を集めました。防災への取り組みや未来を担う子どもの環境、国立天文台の緑や歴史を活かす、買い物利便性の向上など、共通の方向性をお聴きすることができました。

■地域団体へのヒアリング

令和3年10月に、国立天文台周辺地域の住民協議会、町会、自治会、学校関係団体の代表者等へのご説明と意見交換の場として、「国立天文台周辺のまちづくり地域団体ヒアリング（第1回）」を実施しました。また令和3年12月には学校関係団体へのヒアリング、令和4年2月にはおおさわ学園教職員へのヒアリングを実施しました。

▶「国立天文台周辺のまちづくり地域団体ヒアリング（第1回）」の概要

開催日	令和3年10月13日（水）、14日（木）、23日（土）、27日（水）
開催場所	大沢コミュニティ・センター 他2か所
参加団体	11団体（国立天文台周辺地域の住民協議会、町会、自治会、学校関係団体等）
参加者数	23人

▶学校関係団体ヒアリングの概要

開催日	令和3年12月16日（木）、17日（金）、23日（木）
参加団体	大沢台小学校、羽沢小学校、第七中学校各PTA役員会、 おおさわ学園コミュニティ・スクール委員会
参加者数	56人

▶おおさわ学園教職員ヒアリングの概要

開催日	令和4年2月2日（水）
開催場所	第七中学校
参加団体	おおさわ学園（大沢台小学校、羽沢小学校、第七中学校）の教職員
参加者数	57人（内、リモート参加者19人）

■説明会とパネル展示

令和4年1月に、基本方針策定に向けた検討状況のご説明と、住民の皆様のご意見をお聴きする場として、「説明会とパネル展示」を3日間開催しました。

▶説明会とパネル展示の概要

開催日	令和4年1月9日（日）、19日（水）、23日（日） ※1月20日は中止
開催場所	第七中学校、大沢コミュニティ・センター
参加者数	96人

▶説明会の様子



▶パネル展示の様子



■主なご意見

防災・防犯に関すること

- 令和元年台風19号の教訓、避難所（風水害時）でないことの認知不足（羽沢小・大沢コミュニティ・センター）
- 野川沿い市民の避難所利用（調布市域施設）・新たな避難所整備
- 自家用車を利用した避難所（風水害時）への移動
- 野川大沢調節池改修による防災面の効果
- 風水害時における垂直避難の取り組み（団地内）
- 防犯対策の強化（特に夜間・学校周辺など）

商業環境に関すること

- スーパーマーケット誘致への期待（小学校が移転した場合）
- スーパーマーケット誘致に伴う諸課題（周辺道路の交通・環境対策、浸水予想区域内の立地等）
- 多様な診療所の誘致（内科・外科・小児科・耳鼻咽喉科・歯科等）
- 複合型商業施設（コミュニティ施設併設など）
- 跡地利用のあり方（商業施設全面ではなく子どもが遊べる空間の確保）
- 商業環境充実に向けた都市計画の見直し
- 移動スーパーへの評価・要望（巡回増）

自然環境に関すること

- 大沢の良好な環境への評価（緑の連続性・湧水・蛍など）
- 国立天文台の環境（樹木、植物、鳥類、昆虫など）や史跡の調査・配慮
- 国分寺崖線沿い散策路への撮影スポット設置
- 野川の水をきれいにする取り組み・水車の小電力発電利用

道路・交通に関すること

- コミュニティバスへの要望（ルート改善、調布駅直通ルート）
- 路線バスへの要望（鉄道駅までのルート・便数・夜間運行）
- 狭い道路による通行の不便、消防活動への不安
- 暗く、急な崖線階段（七中西側）や道路（七中通学路、野川沿い）の改善

国立天文台敷地の北側ゾーンの新たな土地利用に関すること①

■全般

- 50年後の大沢を見据えたまちづくりへの期待
- 国立天文台敷地の北側ゾーンで市がまちづくりに取り組むことへの評価
- 高台を活かした地域の防災拠点整備
- 子どもだけでなく、お年寄りへ配慮した検討
- 財政負担への心配、事業費の早期提示
- 公共施設から遠い住民への配慮
- 住民目線での計画の検討
- 専門家への意見聴取の必要性

■コミュニティ施設

- コミュニティ・センターを含めた移転
- 現敷地の継続利用・高層化による垂直避難
- 分散型による整備（本館・分館）
- 学校との共同利用（プール・体育館など）
- 今後の改修見直し

国立天文台敷地の北側ゾーンの新たな土地利用に関すること②

■学校施設

- 50年後の革新的な森の中の学校教育への期待
- 国立天文台の緑を残した小学校の計画
- 羽沢小の早期移転に対する保護者の期待
- 羽沢小移転の具体的なスケジュール
- 羽沢小と大沢台小の児童数の将来推計、統合した場合の学区域
- 学校施設の配置
(防犯面で天文台通りに近接希望など)
- 新小学校へのアクセス
(通学距離、道路高低差)
- 体力面での通学のあり方
(遠くても歩くことは悪いことではない)
- 野川沿いからの通学路・避難動線の確保
- 小学校移転時のスクールバス運行
- 学童保育所を含めた整備・スクールバス利用
- 大沢台小との一体整備や第七中も含めた小・中一貫校整備
- 新しい学校のあり方
(コンセプト、安全対策、支援学級など)
- 大沢台小の教育環境改善(運動会やクラブ活動を含むのびのびした教育)
- 現敷地に近い高台への小学校移転
- 調節池整備による学校移転の必要性

■その他の施設等

- 施設の複合化や新しいモデル整備への期待
- バス停やバスターミナル・駐車場等の整備
- 駐車場を備えた市政窓口の整備
- 図書館・保育園・児童館・派出所などの整備
- 「国立天文台ブース」などの展示スペース

■自然環境、公園・広場

- 国立天文台の緑を大切にしたい開発計画
- 子どもが自由に使える広場の整備
- ボール遊びができる公園の整備
- プレイパークの整備、キッチンカー出店場所の確保
- 狸、鳥類などの生息域の保全
- 各地の事例研究
(千葉県「流山おおたかの森」など)



市では令和4(2022)年6月に「国立天文台周辺地域土地利用基本方針」(以下「基本方針」)を策定し、国立天文台周辺地域のまちづくりに関する基本的な方針を示しています。

本冊子は、国立天文台周辺地域のまちづくりについて、多くの方に知っていただけるよう、できるだけ分かりやすいものとして作成した冊子です。市はこの冊子を通じて、これからのまちづくりを皆様と一緒に考えていきたいと思っています。

基本方針と本冊子は、市ホームページに全文を掲載しています。

国立天文台周辺地域のまちづくりに関するご意見は、随時、電話や電子メールなどで受け付けていますので、下記までお寄せください。

国立天文台周辺地域のまちづくりを考えるガイドブック

令和4(2022)年6月
三鷹市都市再生部まちづくり推進課
〒181-8555 三鷹市野崎1-1-1

TEL 0422-29-9702
FAX 0422-45-1271
E-mail machidukuri@city.mitaka.lg.jp